

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

県労連第26回定期大会ひらかる

千葉県労連第二六回定期大会は、一〇月三日一〇時より労働者福祉センター大ホールにおいて開催された。この定期大会には、動労千葉から代議員として中野書記長、関・吉岡両執行委員、斉藤木更津支部長、特別代議員として千葉地区労を代表して白井幕張支部長が出席し討議に参加した。

大会は、斉藤昭夫副議長の開会あいさつで始まり、議長団は斉藤（千教組）、小田切（電通共闘）川尻（県私鉄）の三氏が選出された。大会役職員には動労千葉から関執行委員が大会選挙委員に選出された。

井原県労連議長は、「八〇年代に向けて労働運動はいかにあるべきかを常に問いながら県労連は県内労働運動のセンターとしてその重責をになつていく。具体的には八〇春闘へ向けた体制確立、反合理化闘争の強化、組織拡大強化、政治闘争の強化を押し進めていく」との決意をこめたあいさつをした。

その後、各界からの来賓あいさつをうけ、あいさつの最後に九月二五日付で加盟が実現した千葉県単位農協労組（一〇〇〇名）小林委員長が紹介され、労農提携強化の立場から共に闘う決意が表明された。

つづいて議事に入り、「一九七八年度活動報告及び一九七九年度運動方針」が井原議長から提案され、「一九七八年度会計決算報告、及び一九七九年度予算案」が清水光明事務局長から提案され、若干の討論をへて決定されていた。

機関紙コンクールで「日刊動労千葉」努力賞を受賞

つづいて機関紙コンクール入選作品の表彰が行われ、「日刊動労千葉」は、第一種（活版・オフセット・タイプ印刷の部）で努力賞を受賞し、拍手の中、関執行委員が登壇し表彰をうけた。

大会は、最後に総選挙必勝に関する決議と大会宣言を採択し、団結ガンバローを三唱し終了したのである。

動労千葉からの県労連大会参加は、動労「本部」反動集団の、動労千葉はどこからも相手にされない等というデマ宣伝を打ち破り、動労の名をもって各共闘組織に動労千葉を排除しる等と申し入れ、千葉破壊策動にヤッキになっていた「本部」反動集団の悪アガキを打ち破り動労千葉の運動が県労連内に定着した現実を示すものである。

日刊動労千葉

79.10.5 No. 24C

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八〇九（公衆電話）二七二〇七

中野、関、吉岡、斉藤（代議員）、白井（特別代議員）の五氏出席

自信と確信をもって「10・21」を起点とする反合・三里塚ジェット闘争に決起してゆこう。

全員当選かちとろろ

10 東京	4	3	2	1 千葉
				
浅沢利久 (51)現	新村勝雄 (62)現	辻田実 (45)新	小川国彦 (46)現	木原実 (63)現

最高裁判官 国民審査 3裁判官に×印を!

×印を集中させたい裁判官

藤崎

▽藤崎萬里氏「外務省条約局長、同顧問を務め、サンフランシスコ講和・安保条約、日韓条約の締結に関与。国民審査で最高×印票を受けた下出武三氏の後任として最高裁入り。外務省公使館に、動労両陣営、ベトナム反戦米兵在留許可などの事件でタカ派に敵した。」

藤崎万里

中村

▽中村治朗氏「民法法務官を経て、司法官として金藤林、森田、旭川学等、三菱樹脂などのタカ派判決を手助け。また、最高裁が司法腐敗裁判官を攻撃した際、これを支援するパンフレットを所内に配布。後藤裁判官の指図では「立法政策に忠実に」など発言し、司法の独立を放棄した。」

中村治朗

本山

▽本山孝氏「新日鉄、トヨタ自工など大企業十数社の顧問、経営法門会会長を経て最高裁入り。就任に先立ち記者会見では「英語が先でできた憲法を、そのままにしているのはおかしい」などと発言した改憲論者。また「女子の生理休暇も取り上げて深夜労働もさげろか」と発言。」

10月7日 投票日

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！